

第3学年の実践

安河内 健二

【単元名】「れいをあげてせつめいしよう～世界に40冊！食べ物へんしんブックを作ろう～」

【教材名】「食べ物のひみつを教えます」（光村図書3年）

1 学級の実態

- ・調べたことや書きたいことをメモすることは全員の児童ができる。
- ・自分が書いたメモを活用して構成を考えたり、メモをふくらませて文章を書いたりすることが十分にできない。
- ・段落意識が育っておらず、書こうとすることを続けて書き表す児童が目立つ。
- ・語と語や文と文の続き方を考えながら書くことやつながりのある文章を書くことに課題がある。
- ・書いた文章を読みあうことや感想を伝えあうことに対して意欲的である。

2 言語活動

相手意識	目的意識	場面意識（公/私）	ジャンル
学級の友だち 家族	自分が調べた食べ物のひみつの中から、 伝えたいことを選んで知らせるため	公的	説明文

3 学習目標

(1) 態度目標

- ・他者にわかりやすく伝えるために、工夫して書こうとすることができる。

(2) 価値目標

- ・他者と自分を比べながら、お互いの考えのよさを認め合うことができる。

(3) 技能目標

- ・「はじめ・中・おわり」の構成を理解し、調べたことを段落に分けて書くことができる。
「中」の部分で、内容のまとめごとにより段落を分けて書くことができる。
- ・書いたものを読み合っ、書き手の考えについて意見を述べ合うことができる。

(4) 年間技能目標における位置づけ（◎は重点的に指導）

月	単元	教材	ジャンル	課題	取材	論理	構成	記述	推敲	交流
6	ほうこくする文章を書こう	気になる記号	報告文	◎			○			
7	用件や気持ちがつたわるように書こう	手紙を書こう	手紙					◎	○	
11	れいをあげてせつめいしよう ～世界に40冊！食べ物へんしんブックを作ろう～	食べ物のひみつを教えます	説明文				◎			○
12	組み立てを考えて書こう	物語を書こう	物語文			◎	○			
1	かるたについて知ろう	かるた	詩		○					○
2	ほうこく書を書こう	本で調べてほうこくしよう	報告文	○	◎					

4 単元構成図

単元名・教材名

れいをあげてせつめいしよう「世界に40冊！3の2食べ物へんしんブックを作ろう」
「食べ物のおひみつを教えます」(光村図書3年)

総時数7時間

学習の活動目標

学習目標

第1次(1時)

※《》は評価規準

「調べたことを、例を挙げて説明する文章を書いてみんなで読み合おう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。

(調べたい食材を1つ決める)

食べ物について関心を持ち、食材を1つ選んで書くことを決めたり、学習の見通しをもつたりすることができる。

《学習に見通しを持ち、調べたい食材を決めている。》

第2次(2時)

図書の本を読んだり、家の人や栄養士さんなどに聞いたりして、選んだ食材がどのように姿を変えて食べられているか、書くことに必要なことを理解して調べる。

図書の本を読んだり家の人や栄養士さんなどに聞いたりして、食材がどのように姿を変えて食べられているかを調べることができる。

《書くことに必要なことを調べている。》

第3次(2時)

「はじめ」「中」「おわり」の構成になるように、調べたことの例を示しながら文章を書く。(本時)

「はじめ・中・おわり」の構成を理解し、調べたことを段落に分けて書くことができる。「中」の部分では、内容のまとまりごとに段落を分けて書くことができる。

《調べたことの例を示しながら、「はじめ」「中」「おわり」の構成になるように文章を書いている。》

第4次(2時)

「3の2食べ物へんしんブック」を作り、書き上げた文章を友だち同士で読み合う。

そして、上手に書けているところを見つけ、伝え合う。

書いたものを読みあい、友だちが上手に説明しているところに気づき、意見を述べあうことができる。

《友だちの文章を読み、上手に書けているところを見つけ、意見を伝えている。》

5 学習活動と指導の実際

第一次・・

①学習内容

学習課題を設定し、学習の計画を立てる。(調べたい食材を1つ決める)(1時間)

②指導内容

単元「すがたをかえる大豆」の学習後に、大豆以外にもすがたをかえている食品がないかを児童に尋ねた。すると、「米はごはんやおもちになるよ。」「牛乳はヨーグルトになるとお母さんが言っていたよ。」など、自らの生活経験をもとに一生懸命考える児童の姿が見られた。そのような児童の思いを生かしながら資料1に示す学習計画を立てた。その過程で、最終的には一人一人が調べたことを一冊の本「食べ物へんしんブック」にまとめ、みんなで読み合おうという目的意識を持たせるようにしていった。

しかし、「食べ物へんしんブック」を作り、みんなで文章を読み合うためには、児童一人一人ができるだけ異なる食品について調べていく必要があると考えた。そうすることで、みんなで読み合った時に新たな気づきも多く生まれるし、互いに読み合う楽しさも味わえるからである。そこで、「身近な食品の中で姿を変えてそうな食品」を自由に考えさせる場を設定した。資料2は、児童が話し合った結果出された食品名である。

このようにして児童は、教科書に例示されている「米」「麦」「とうもろこし」「さとうきび」「牛乳」「魚」以外にも、姿を変えて食べられている食品があることに気づき、意欲的に調べたい食材を一人一人が決定していった。

(資料1) 単元の学習計画

(資料2) すがたをかえる食品の例

調べたことを、例を挙げて説明する文章を書いてみんなで読み合おう

～世界に40冊！3の2食べ物へんしんブックを作ろう～

- ①学習計画を立て、調べたい食材を1つ決める。
- ②③図書の本を使って、食材がどのように姿を変えて食べられているか調べる。
- ④⑤⑥「はじめ」「中」「おわり」の構成に気をつけて、説明する文を書く。
- ⑦「3の2食べ物へんしんブック」を作り、みんなで書いた文を読み合う。

- | | |
|--------|--------|
| ○たまご | ○とうがらし |
| ○いちご | ○豆腐 |
| ○いわし | ○小豆 |
| ○いか | ○肉 |
| ○オクラ | ○じゃがいも |
| ○ぶた肉 | ○らっかせい |
| ○だいこん | |
| ○さとうきび | など |
| ○ゴーヤ | |

第二次・・

①学習内容

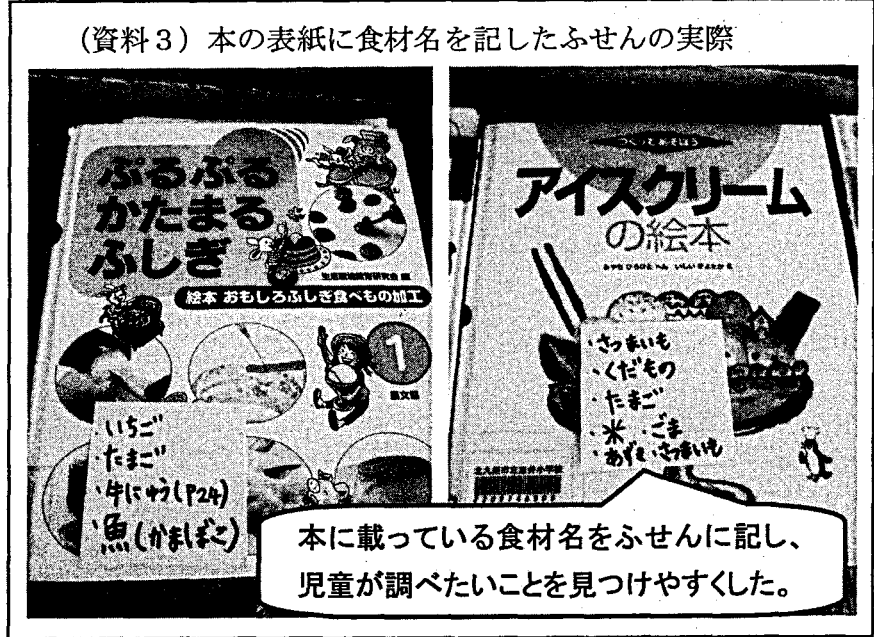
図書館の本を読んだり、家の人や栄養士さんに話を聞いたりして、選んだ食材がどのように姿を変えて食べられているか、書くことに必要なことを調べる。(2時間)

②指導内容

十分に調べ活動が行えるようにするために、学校図書館以外に地域の図書館に依頼をして、食べ物に関する本を多く準備した。だが、どの本に自分の調べたい食材に関することが載っているかを探し出すことはとても困難であることが予想された。そこで予め、教師が本の中身を確認し、どのような食材に

関する内容が記載されているかを確かめ、本の表紙の部分に食材名を記したふせんを貼り付けるようにした。(資料3)

すると児童は、ふせんに書かれた食材名を頼りに、自分の調べたいことが載っている本を短時間で見つけ、調べ活動に取り組む姿見られた。さらに、「この本にもいちごのことが載っているみたいだよ。」などと、複数の本を見比べながら調べ活動をする児童の姿も見られた。

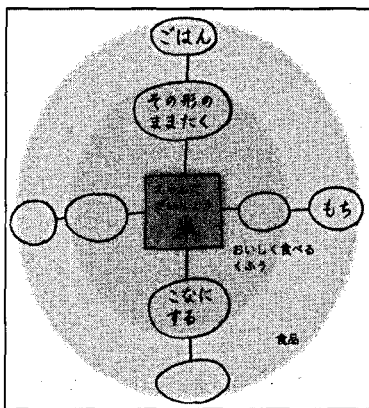


このようにして調べたことは、「おいしく食べる工夫」「姿をかえていく様子」の観点でメモに書かせ、整理させた。教科書には、資料4に示す図が例示されている。しかし、このような形式で調べたことをまとめることは、児童にとっては初めての経験である。そこで、単元「すがたをかえる大豆」の学習を想起させながら、全体で教科書に提示されている図が表す意味を確認する時間を設定した。そのうえで、資料4のワークシートを準備し、調べたことを書かせていった。

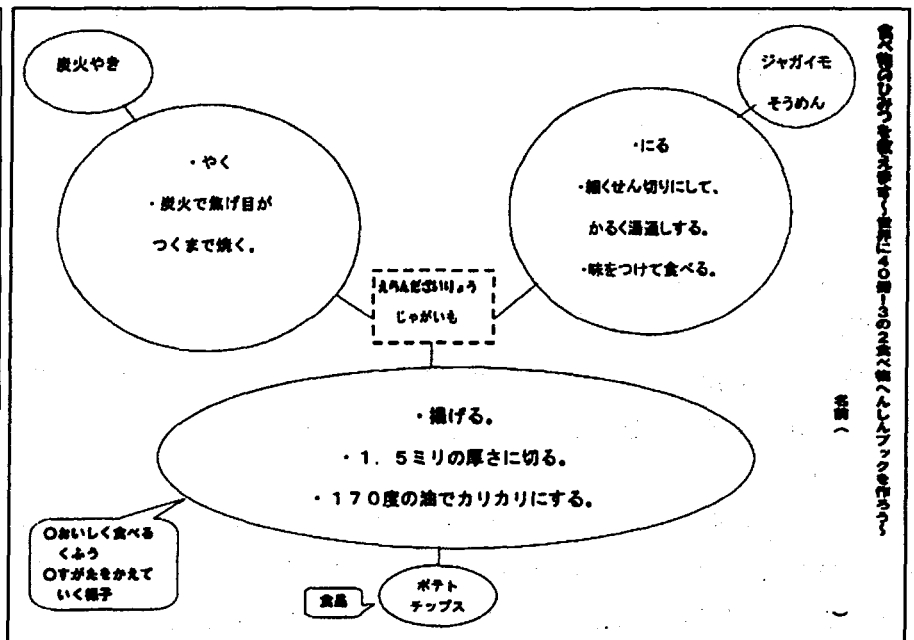
ワークシートに記入する際は、長い文章でメモを書くのではなく、調べて分かったことを短い文章で書くことを全体の場で確認するようにした。長い文章の形になっている児童には、個別に「必要なこと・必要でないこと」を確認し、できるだけわかりやすいメモとなるようにしていった。

(資料4) 調べたことを記入するワークシート

↓教科書の図



↓教科書の図をもとにしたワークシート



特に、分量や調理に必要な器具などを細かくメモする児童の姿が目立ったので、その点は全体で確認する時間を設け、メモしなくてもよいことを押さえるようにした。

第三次・・

①学習内容

「はじめ」「中」「おわり」の構成になるように、調べたことの例を示しながら文章を書く。(2時間)

(授業1～授業2)

②指導内容

「はじめ」「中」「おわり」の構成を理解させるための手だてとして、ワークシート(構成表)を準備し、「はじめ」「中」「おわり」の部分に分けて記述させるようにした。記述させる順序も「はじめ」「終わり」を記述した後に、「中」を記述させるようにして、「中」の部分に時間をかけるようにしていった。

特に、「中」の部分は、短冊形式にしたワークシートを準備し、1枚の短冊に調べたことを1つずつ書かせていった。また、教師による評価も短冊形式のワークシート1枚ずつ行うようにした。そうすることで、書くことに抵抗のある児童には、「まず」「次に」などの接続詞の使用を意識づけることや、文末を「～です。」「～ます。」とすることを呼びかけるようにしていった。

第四次・・

①学習内容

「世界に40冊!～3の食べ物へんしんブック～」を作り、書き上げた文章を友だち同士、家庭で読み合い、互いのよさを認め合う。(2時間)

②指導内容

学級の児童一人一人が書いた文章を一冊の本としてまとめ、学級の友だち同士、家庭で読みあう場を設定した。

本の形式はカラー刷りで、サイズは15cm×11cmのミニサイズの本となるようにした。カラー刷りにしたことで、「食べ物へんしんブック」が完成したときの児童の喜びは、とても大きなものとなった。ちょうど手の平くらいのサイズの本を、目を輝かせて熱心に読む児童の姿はとてもほほえましかった。

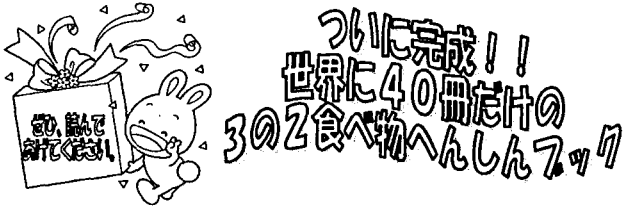
また、「食べ物へんしんブック」を作る学習は、次頁資料5に示すように、学級通信を使って家庭に伝えるようにした。それは、書いた文章の良さを互いに認め合う場を家族にも広めたいと考えたからである。

そして、保護者からは「食べ物へんしんブック」を読んだ感想を募るようにした。特に、本実践では「構成」に重点を入れて指導を行ったので、「はじめ」「中」「終わり」に分けて文章を書いたことや「まず」「次に」などの接続詞を使って文章を書くことの大切さを保護者に強調して伝え、その視点からの感想も募るようにした。

この結果、学級全体の9割近くの保護者が感想を書いてくださった(次頁資料6)。保護者から届いた感想は、児童に読み聞かせ、文章の良さやがんばりを認め合えるようにしていった。児童にとって、友だちの保護者からほめられるという経験は新鮮だったようで、保護者からの感想をうれしそうに表情で聞いていた。



(資料5) 食べ物へんしんブックの学習について知らせる学級通信



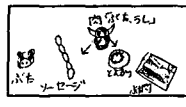
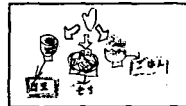
～3年2組38人 一人一人が作者～

国語科「食べ物のみつをしょうかいします」の学習のゴールとして設定した『3の2食べ物へんしんブック』が完成しました。子どもたちの「がんばり」がたくさんつまった力作です。

そんな、3の2食べ物へんしんブックを創り上げるまでの道のりを、簡単に説明したいと思います。

まず、「すがたをかえる大豆」の学習をしました。ここでは、説明文の書き方を学習し、文章を「はじめ」「中」「終わり」の三構成に分けて書くことや「まず」「次に」「さらに」という言葉を使って順序を示しながら表現することをマスターしました。

次に、このことを活用して自分自身で説明文を書きはじめました。一人一人が詳しく調べたい食べ物を1つだけ決め、その食べ物がかんたんに変化するかを調べました。調べるために、図鑑や書物を活用しました。



子どものために書いた書物は少ないので、難しい漢字があったり、知らない言葉があったりと困難続きでした。そのようなときは、日頃使い慣れている国語辞書を使って言葉の意味を調べるようにしました。そして、本を読みながら大事なことをメモして、文章に仕上げていったのです。最後に、出来上がった文章を消書きしました。手の甲が真っ黒になり、手がつかれるほど一生懸命がんばっていました。熱心に取り組む子どもたちの姿をお家の方にもお見せし

たかったです。このようにして出来上がった一人一人の文章をとし合わせ、一冊の本にまとめたものが「3の2食べ物へんしんブック」です。今日お家に持ち帰りますので、ぜひ家族みんなで子どもたちの文章を読んであげてください。そして、「ほめ言葉」を一言かけていただくとありがたいです。きっと次のがんばりにつながるのだと思います。子どもたちも、自分の調べた食べ物のことは知っていますが、友だちの調べた食べ物のことは詳しく知りませんが、

みんなで作った食べ物へんしんブックを読み合うことで、新しいことに気づいたり、友だちのがんばりにも目を向けたりしてほしいと思います。そんな思いで作った「3の2食べ物へんしんブック」、3年2組の思い出の一つとしていつまでも大事にしてもらえるとうれしいです。

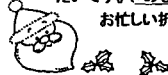


3年2組の子どもたちにメッセージをお贈りします

「ほめること」は、教育活動の中でも大切なことです。最近わたしが読んだ『ほめちから』という書籍の中には、「ほめるという行為の根拠には、お互いのいいところを積極的に認め合うという專業がある」と書いてありました。ほめること＝認めることは、子どもたちの「やる気」と「自信」を高めることにつながります。

そんな、ほめられること、認められることを子どもたちにたくさん経験させたいと考えています。そのために、一言でも子どもたちに感想をプレゼントしていただくとありがたいです。(『のびるこ』と一緒に感想用紙を配っていますので使ってください。)

お忙しい折、ご協力いただくと幸いです。



(資料6) 保護者からの感想を紹介した学級通信



『3の2食べ物へんしんブック』の感想をお願いしたところ、たくさんのメッセージが届きました。お忙しい中、心温まるメッセージをわざわざ書いていただきありがとうございます。届いたメッセージは、子どもたちに読んであげました。

メッセージを読んでもうれしそうな表情をしていました。「字が書いてなかったこと」「詳しく調べて書いてあったこと」「とても分かりやすかったこと」「初めて知ったことがあったこと」など、子どもたちのがんばったことをダイレクトにほめていただき、ありがとうございます。改めて、子ども達のがんばりを認めてあげることの大切さを感じました。

今、国語科では「物語を書く」という学習をしています。起承転結の組み立てを考えながら、オリジナルの物語を作る学習です。次は、『3学期に文庫としてまとめたね。』と話をしているところです。

たくさんの感想をいただきましたが、いくつか紹介させていただきたいと思います。



とてもいいに細かく書けていると思いました。同じ内ようのものでも、またちがつて、一人一人のこせいも出ていると思います。文でのせつめいも上手ですが、絵もよく書いていました。なかなか楽しい本でしたね。



3の2食べ物へんしんブック、みんなよく書けていましたね。1つ1つ読ませてもらいましたが、これを仕上げるのにたくさん調べものをして、何度も書き直して、いっぱいどりよくした様子が目にうかがえます。この本は、3年2組のどりのけっしょうですね。



よくがんばりましたね。お母さんたちは、毎日食べ物をへんしんさせて夕食を作っています。みんなも「まず」「次に」「さらに」というふうになんげに成長してってくださいね。



食ざいをいかけた食べ物へんしんぶりをせんもん家になったような気持ちで、だれにでもつたわるように、ていねいなせつめいで作ってあり、とてもすばらしく思いました。自分たちだけのへんしんブック、たからものがまた1つふえましたね。



3の2食べ物へんしんブックをよんで、いろんな食べ物がかんたんにしがたによつてすがたをかえることがよく分かりました。くわしく調べたことを文章に表してがんばって作ったんだなと思えました。大切にしたいと思います。

保護者会です

来週の月曜日と火曜日は保護者懇談会の日です。学級全体の人数が多いため、一人一人の方とお話をする時間が十分にたれなかつたり、30分の時間帯中に4～5人の方の懇談を入れていますので、お待たせしたりすることもあると思います。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。廊下はとても寒いですが、風邪をひかれぬよう、十分に防寒対策をされてから来校してください。

6. 授業の実際

授業1 「はじめ」「中」「おわり」の構成について理解する指導について

(1) 授業の計画

教師の手だて



①教科書のサンプル文を3つに分ける活動を通して、「はじめ」「中」「おわり」の構成について理解できるようにする。

②常に、単元「すがたをかえる大豆」の学習を想起させたり、比較させたりするようにする。

【本時でつきたい力】

「はじめ・中・おわり」の構成を理解する。

【本時の言語活動】

教科書のサンプルを参考にして、「はじめ」「中」「おわり」に書く事柄を整理する。

【本時の活動計画】

①これまでの学習を振り返り、めあてをつかむ。

(めあて)

文章を読んで、「はじめ」「中」「おわり」の役割を考えよう。

②教科書のサンプルを3つに分け、「はじめ」「中」「おわり」に書く事柄を確認する。

サンプル文を3つに分けた後の話し合いの様子

T 1) 文章を分けるときに、どんな分け方をしましたか。

C 1) 段落で分けました。

C 2) 「はじめ」「中」「おわり」の3つになるように分けました。

T 2) 段落で分けた人がいるけど、段落は3つだけじゃないよね。そこはどうしたのかな。

C 3) すがたをかえる大豆のときと同じように、「はじめ」「おわり」以外は、「中」にしました。

C 4) すがたをかえる大豆のときも、「中」にはたくさん段落があったから、それでいいと思います。

T 3) そうだったね。「中」には段落がいくつもあったね。みんなが分けた文章をもう一度読んでみましょう。「中」の段落って、順番を入れ替えてもいいと思いますか。いけないと思いますか。

C 5) 入れ替えたらいけないと思います。「まず」「次に」という言葉があるから、入れ替えるとおかしい文章になります。

③学習のまとめをする。

(まとめ) 「はじめ」「中」「おわり」に分けて文章を書くと分かりやすい。中を書くときは、「まず」「次に」を使うとよい。

④「題」「はじめ」「おわり」の部分の文章を書く。

児童の意識の流れ

調べたことは、どんなふうに文章に書くといいのかな。



すがたをかえる大豆と同じように、「はじめ」「中」「おわり」に分けて文章を書くと、分かりやすい文章になるね。



中にはいくつも段落があるから、「まず」「次に」などの言葉を使うと、分かりやすい文章になるね。



(2) 授業の実際

すがたをかえる大豆では、文章が「はじめ」「中」「おわり」に分かれていることを読み取る学習をした。このことを学習中に想起させたり、比較させたりすることを常に大切にされた。

まず、「はじめ」「中」「おわり」の構成を理解させるために、資料7に示す教科書のサンプル文を「はじめ」「中」「おわり」の構成に分ける学習を行った。教科書のサンプル文はとても短いので、児童は容易に「はじめ」「中」「おわり」の構成で、文章を分けることができていた。

その後、どのようにして文章を3つに分けたかについて話し合いを行った。その話し合いを通して、「はじめ」「中」「おわり」の構成で文章を書くことの大切さや、「中」の部分では、「まず」「次に」「さらに」などの接続詞を適切に使って文章を書くことの大切さを確認した。

文章を書き進める段階では、資料8に示す構成表を活用した。この構成表は、「題名」「はじめ」「中」「おわり」の構成が一目でわかるようにまとめたものである。この構成表を活用することで、児童に「はじめ」「中」「おわり」の構成を意識づけるようにしていった。

日頃は書きたいことを整理できない児童、書こうとすることを長い文章で続けて書こうとする児童、段落意識が育っていない児童も、「はじめ」「中」「おわり」を確認しながら、文章を書き進める様子が見えられた。

また、「中」の部分に重点を置いて文章を書かせたいと考え、「はじめ」「おわり」「中」の

(資料7) 教科書のサンプル文

すがたをかえる米
丸川 ともみ

米は、いろいろな食品にすがたをかえています。まず、ごはんです。米をといで、水につけてからたくと、ほかほかごはんになります。次に、もちがあります。もちにする米は、もち米というつくべつの米です。これをむして、うすときねでつくると、もちになります。もちつきのきかひもあります。

さらに、白玉にもなります。もち米をこなしたものに、水を入れて練ります。それをゆでたりふかしたりすると、白玉になります。

このように、米は、くふうされて、いろいろなすがたになって食べられています。

(資料8) 文章全体の構成を理解させるための構成表

<活用のポイント>

- 「はじめ」「中」「おわり」のどこを書いているかが分かる。
- 文章全体の構成が一目で分かる。

終わり	中 (1つの段落に1つおく)	はじめ	題名
れ		た	○
て		き	じ
い		か	ゃ
る		え	が
の		て	い
で		い	も
す		ま	は
な		す	い
す		い	ろ
が		ろ	い
た		い	ら
に		な	い
な		食	も
っ		品	
て		に	
食		す	
べ		が	
ら			

<中について>

- 「中」は、「はじめ」「おわり」を書いた後に書かせる。
- 短冊シートに書かせ、後から貼り付ける。
- 中の構成についても考えさせるようにする。

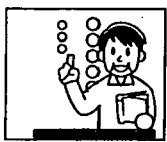



<児童支援上のポイント>

- 段落構成の意識を育てるために、「はじめ」「おわり」の部分は、教科書のサンプル文を真似ながら書かせる。
- 文字数を意識させるために、マス目の枠を準備する。
- 段落意識を育てるために、文頭に「○」を記載する。

順序で文書を書かせるようにした。「はじめ」「おわり」の部分については、教科書のサンプル文を真似ながら文章を書かせた。そのようにしたことで、書くことを苦手とする児童も抵抗なく、すらすらと書き進める姿が見られた。

授業2 構成についての理解を基に文章を実際にかける指導について

(1) 授業の計画

<p>教師の手だて</p>  <p>①「はじめ」「中」「おわり」が一目で分かる構成表(ワークシート)を準備する。</p> <p>②文章を「はじめ」「おわり」「中」の順で書き、「中」の部分が書こうとするものの中心となるようにする。</p>	<p>【本時でつきたい力】 「はじめ・中・おわり」の構成を理解して、構成を基に文章を書く力。</p> <p>【本時の活動計画】</p> <p>①前時の学習を振り返り、めあてを確認する。</p> <p>(めあて) 「まず」「次に」「さらに」などの言葉を使って、調べたことを一つずつ文章にしよう。</p> <p>②短冊シートに調べたことを書く。</p> <p>○短冊シートを書く前に、自分が調べたメモをもとに、「中」の部分の構成について考えさせ、「まず」「次に」「さらに」などの順序を意識させるようにする。</p> <p>○1枚の短冊シートには、食品がすがたを変える事例1つだけを書かせるようにする。</p> <p>③構成表に短冊シートを合わせて、文章全体の構成を確認する。</p> <p>④学習のまとめをする。</p> <p>○次時は、清書をして、「食べ物へんしんブック」作りを進めていくことを確認する。</p>	<p>児童の意識の流れ</p> <p>短冊シートには、調べたことを1つだけ書くといひね。</p>  <p>「まず」「次に」の言葉を忘れずに使おう。</p>  <p>構成表に短冊シートを合わせると、文章が完成するね。</p> 
--	---	--

(2) 授業の実際

「中」を書く場面の指導では、「まず」「次に」「さらに」などの言葉を使って、調べたことを一事例ずつ文章にしていくことをめあてとして学習に取り組んだ。

「中」を書き始める前には、自分が調べたメモをもとに、「中」の構成について考えさせるようにした。児童は各自、食品が姿を変える様子について2～4事例ずつ調べていたので、その事例を説明する順序を考えさせることは必要だと考えたからである。

「中」の構成を終えた児童に、質問を通して構成の意図を探ったところ、児童は、自分が調べたことの中で一番驚いたことや不思議に感じたことを初めに書いていくパターン、反対に、一番驚いたこと

や不思議に感じたことを最後に書いていくパターンなど、一人一人違った「中」の構成を考える姿が見られた。つまり、「中」の構成を考える活動は、児童に書こうとすることの中心や伝えたいことの中心を明確にすることへとつながったと考えられる。

資料9は、「オクラ」という同一の食品を取り上げて文章を書いた児童の作品の一部である。資料9からは、同一の食品を取り上げて書いた文章でも、児童の構成の仕方により、事例の取り上げ方が異なることが分かる。

(資料9) 同一の食品を取り上げて文章を書いた児童の作品

	A児	B児
はじめ	オクラは、いろいろな食べ物にすがたをかえています。	オクラは、いろいろな食べ物にすがたをかえて食べられています。
中	まず、 <u>コーヒー</u> です。コーヒーは、オクラのたねを取って取ります。いったオクラのたねをコップにコーヒーのように入れると出来上がりです。	まず、オクラの天ぷらです。オクラをあげると、オクラの天ぷらになります。
	次に、ゆでも食べられます。ゆでたものを切って、しょうゆやかつおぶしとまぜて食べます。他にも、納豆とまぜてもいいです。	次に、かんそうオクラです。オクラを輪切りにして、ザルなどの上にならべて風通しのよい場所できんそうさせます。使うときは、そのままスープや汁に入れておいしく食べます。
		さらに、 <u>代用コーヒー</u> があります。オクラの収穫が最後の方になったら、完熟させて、たねを取ります。たねをいって、コーヒーミルやすりばちですりつぶし、コーヒーのように入れれば、代用コーヒーの出来上がりです。
おわり	このように、オクラはちがう食品にすがたをかえて食べられているのです。	このように、オクラはくふうされているいろいろな姿になって食べられているのです。

その後、文章を書き進める際は、資料10「短冊シート」を活用した。短冊シートは、事例ごとに内容を整理して文章を書かせるために作成したものである。「1つめの工夫」「2つめの工夫」というように、事例が増えるごとに短冊シートの枚数が増える仕組みである。

また、児童には、「1つめの工夫」について書くときは「まず」、「2つめの工夫」について書くときは「次に」というように助言をした。事例ごとに順を追って文章を書き進めたことで、児童は「まず」「次に」「さらに」という接続詞を自然と意識することができていた。

また、本学級の児童の実態からみて、「中」の部分の続きを記述さ

(資料10) 「中」の部分の短冊シート

(2)つめの工夫				(1)つめの工夫				
	ト	ど	す	〇		に	げ	〇
	チ	の	.	次		な	め	ま
	ッ	換	1.5	に		り	が	ず
	ブ	で	ミ	.		ま	つ	.
	に	カ	リ	ポ		す	く	炭
	な	リ	の	テ		.	ま	火
	リ	カ	あ	ト		で	や	
	ま	リ	っ	チ		や	き	
	す	に	さ	ッ		く	で	
	.	す	に	ブ		と	す	
	る	切	ス			.	.	
	と	っ	が			炭	炭	
	.	て	あ			火	火	
	ポ	.	リ			や	で	
	テ	110	ま			き	こ	

せると、内容が整理できないまま文章を書き進める児童の存在が予想された。しかし、短冊シートを活用したことで、日頃は個別指導を必要とする児童も、自力で短冊シートを書き進めることができていた。メモをもとに、事例ごとに文章に直していくというスモールステップの取組が効果的に作用した結果だと考える。

7 実践のまとめ

(1) 成果

価値目標

・他者と自分を比べながら、お互いの考えの良さを認め合うことができる。

文章を書き、一冊の「食べ物へんしんブック」を作るという目標に向かって学習に取り組んだことで、友達の書いた文章を互いに読みあい、その過程で友達のがんばりに目を向けることができた。特に、自分の知らなかったことを友達の書いた文章から知った児童は、「初めて知ったよ。ありがとう」「すごいわね。びっくりしたよ。」等、友達に声をかける姿が見られた。学級全員分の書いたものを一冊の本にまとめるということが、自分と他者を比べること、お互いの良さに目を向けることに結びついていったと考える。

また、保護者からも「初めて知ったことがありました。驚きました。」などの感想をいただいた。家庭で保護者と児童が共に「食べ物へんしんブック」を読み合う過程で、他者の考えの良さにも自然と目が向いたことがうかがえた。

このように、学校、家庭でお互いの考えの良さを認め合う場を設定したことで、書くことに対する児童の意欲も高まったものと考えられる。

態度目標

・他者にわかりやすく伝えるために、工夫して書こうとすることができる。

「食べ物へんしんブック」を作るという目標を設定して学習に取り組んだことで、児童は文章を丁寧な文字で一生懸命に書いていた。教師のただ「丁寧に書きましょう。わかりやすく書きましょう。」といった抽象的な指示ではなかなか児童の意欲も高まらないが、友達や家族に読んでもらうという思いがあるからこそ、分かりやすく伝えようと工夫を凝らす姿が見られた。

このような児童の姿からも、「食べ物へんしんブック」を作るという取組は、態度目標を達成するために有効に作用したものと考えられる。

技能目標

- ・「はじめ・中・おわり」の構成を理解し、調べたことを段落に分けて書くことができる。
- ・「中」部分で、内容のまとまりごとに段落を分けて書くことができる。
- ・書いたものを読み合っ、書き手の考えについて意見を述べ合うことができる。

「はじめ」「中」「終わり」の構成を意識させるための構成表を活用したことで、児童は調べたことを段落に分けて書くことができた。「中」の部分でも、短冊シートを活用したことで、内容のまとまりごとに段落を分けて文章を書くことができた。書くことを苦手とする児童も、構成表を使ったことで視覚的に「はじめ」「中」「終わり」の構成がとらえられ、つまずきを見せる姿も見られなかった。

「食べ物へんしんブック」を作ったことで、児童は書いたものを読み合う活動をととても楽しんでいった。そして、互いの文章を読み合う中で、自然と友達の書いた文章に対する意見を述べ合う姿も見られた。

(2) 課題

- ・価値目標や態度目標は児童の学習意欲を支えるものだということが分かった。教師としては技能目標に意識が向きがちであるが、価値目標や態度目標の大切さを改めて認識する必要がある。
そして、価値目標や態度目標を意識した国語科授業づくりを行っていかねばならないと考える。

(3) 単元を終えて

私自身の指導を振り返ってみると、今までの国語科・書くことの指導では、「適切に文章が書けるか」「段落を意識しているか」「誤字はないか」など、「技能目標」に対する評価が重点的であった。しかし、本単元の実践を通して、「価値目標」「態度目標」に対する評価を意識するようになったことが私自身の大きな変化である。

学級で作成した「食べ物へんしんブック」は、児童一人一人の大切な宝物となっている。児童が「宝物」と思えるように至ったことは、価値目標を意識することの重要性を物語っていると考える。あなたが、技能目標だけに目が向きがちだが、価値目標や態度目標といった視点も国語科学習では大切であると私自身が学ぶことができたのは、とてもうれしいことである。

技能目標に関しては年間計画を立て、重点目標を設定した。このことは、私自身の指導法を改善することにつながった。というのは、これまでの学習では、「取材」「記述」「構成」「推敲」等、すべての技能項目を完璧に指導しようとしていたからである。そのため、授業時数が不足したり、「記述」の部分に偏った指導をしたりしてしまっていた。しかし、単元毎に重点を定めたことで、メリハリのある指導ができるとともに、結果的には万遍なく技能項目を指導できるようになった。

最後に、実践をまとめる過程で考えたことは、「構成に重点を置くということは、他の技能項目（記述、取材など）の指導を簡略化することではない」ということである。私自身、児童が記述や取材の面でつまづきを生じないように、ワークシートの活用など様々な手だてを取ってきた。構成に重点を置くために、他の技能項目に関しても何らかの手だてを講じていたのである。このように、重点を置くということの大切さも本実践を通して学ぶことができた。